

別記第1号様式(第7関係)

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		豊島区子どもスキップ運営協議会
事務局（担当課）		教育委員会事務局 放課後対策課
開催日時		令和7年2月26日（水） 午後6時～7時
開催場所		区役所本庁舎8階レクチャールーム
議 題		子どもスキップの運営状況について
公開の 可否	会 議	☐ 公開 ☒ 非公開 ☐ 一部非公開 傍聴人数 人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由 子どもスキップに対し各委員の所感・感想・意見等を忌憚なく発言 していただくため
	会 議 録	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	白熊 千鶴子（豊島区青少年育成委員会連合会 会長） 根岸 幸子（豊島区青少年育成委員会連合会 常任幹事） 長橋 けい子（豊島区青少年育成委員会連合会 幹事） 三原 眞理子（豊島区青少年育成委員会連合会 幹事） 日向野 修二（池袋小学校校長） 谷口 基（小学校PTA連合会会長） 村上 政美（西巣鴨放課後子ども教室地域コーディネーター） 笠原 まち（高南小学校学校開放運営委員会委員長） 金子 智雄（教育長） 活田 啓文（子ども家庭部長） 兒玉 辰哉（教育委員会事務局教育部長） 欠席 河村 涼子（子どもスキップ高南所長）
	事 務 局	小椋 瑞穂（子ども家庭部子ども若者課長） 欠席 村山 康介（教育委員会事務局放課後対策課長） 内田 吉彦（教育委員会事務局放課後対策課児童支援係長） 千野 友紀恵（教育委員会事務局放課後対策課係員）

審 議 経 過

No. 1

1 開会

2 教育長挨拶

3 報告・議題

子どもスキップの運営状況について

放課後対策課長より資料について説明

4 各委員による意見交換

以下経過

A 委員

6 年度の事業報告にあるアーバンスポーツ体験、ミュージカルワークショップは来年度も行うのか。

放課後対策課長

アーバンスポーツのほか、ホームタウン協定を締結した団体など、プロのスポーツ選手との交流を計画している。

ミュージカルは新規拡充事業で認められなかったため、これに代わる文化体験を検討したい。

B 委員

小1の壁について。事前登録の条件はあるか。

放課後対策課長

新1年生で、学童クラブ利用・早朝利用（9時前利用）を申し込んでいる児童のみが対象になる。

B 委員

では、家庭の事情は考慮されないということか。

放課後対策課長

学童クラブの利用、9時前申請には保護者の就労状況を考慮している。

B 委員

将来的に1年生の利用が増えるのではないか。対策は考えているのか。

放課後対策課長

現在の申込者数は 115 人で 1 施設 5,6 人と想定内の数になっている。また、先ほどの条件に加え、必ず保護者が連れてくることが条件になっているため、想定を大きく超えることはないと考えている。

B 委員

当該 1 年生に兄弟がいる場合があると思うが、利用はできるのか。

放課後対策課長

兄弟が学童クラブを利用している場合は、兄弟姉妹で利用することができる。

C 委員

椎名町は 10 人の申請がいるとのことだが、職員の人数は足りているのか。

放課後対策課長

子ども達を見る用務員は業務委託のため、こちらから何人で見してほしいとは言えない。しかし、基本的には 1 人、多ければ 2 人で見ている。静かに過ごすことをルールとする予定である。

D 委員

夏休みのお弁当や、小 1 の壁など、豊島区は色々な仕組みを整えている。保護者には、このような取り組みがあり、育てやすさにつながっていることを感じてもらいたい。

E 委員

スキップが校舎内にあるところでは、校舎の使い方に融通が利く。離れているところはなかなか難しいこともあるが、夏休みなどは図書室を開放するといった、学校と連携した取り組みをこれまで以上にやっていきたい。

F 委員

学校を貸すのは、先生たちの負担にならないのか。

E 委員

スペースを貸すだけなので、負担にはならない。体育館や図書室、空いている教室などを貸すことは、これまで以上にどの学校でもやっていった方が良い。

放課後対策課長

子どもスキップが教育委員会に入っている理由の一つが、学校と連携しやすいということである。学校にも交渉して、空いている教室やタイムシェアリングできる教室を探していきたい。池袋本町は、ほんちょうの郷という特別養護老人ホームが、施設の開放を提案してくれた。子どもと交流したい高齢者もいるため、まずは、放課後子ども教室の囲碁やお話の会など、高齢者も参加でき、子どもたちも静かに過ごすことのできるプログラムを行う予定である。一時的にはあるが、子どもが分散することにつながるのではないだろうか。地域の人とも連携しながら、場所の確保を行っていきたい。

C 委員

昨年の夏は、ほとんど校庭で遊べず、行く場所がない。体育館が学校の予定で使えないと、子どもたちは狭いコアとセカンドで遊ぶことになり、運動ができない。今年はどうするか考えているのか。

放課後対策課長

学校の体育館や、地域の施設をお借りする。

G 委員

良い取り組みをしており、続けていってほしい。
利用者にアンケート等を行い、続けてほしいこと、改善してほしいことを聞き取り、予算の都合等で全てできるわけではないと思うが、保護者の求めることに資源を使ってほしい。そのようなことは何かやっているのか。

放課後対策課長

地域子ども懇談会など保護者と意見交換する機会がある。今後も、保護者の声を拾っていきたい。

G 委員

PTA が良いと思って行っても、保護者に刺さらなかったり、保護者の声を聞き、自分たちでは気づけなかったことを行くと保護者に刺さったりすることもあるので、若い世代がどのようなことを考えているのかを汲んでいってほしい。

H 委員

資料にあるおかえりサポートの「主に学童クラブ登録者を対象」の「主に」は学童クラブ以外の子どもも入るのか。また、実施期間が「年度当初」となっているが、いつごろまでを指すのか。

放課後対策課長

「主に」については、学童クラブ登録者がメインだが、一般で来ている子どもと一緒に帰りたいと言え、それを拒むものではないという意味である。また、「年度当初」は4月、「日没時間が早い」は10~2月を考えている。

A 委員

スキップの職員が一定の場所まで送っていくのを見て、丁寧だと感じた。資料にはシルバーとなっているが、スキップによって違うのだろうか。

放課後対策課長

職員が近くまでお見送りしているところもあるが、子どもスキップ内の職員が手薄になってしまうため、これからはシルバー人材にお願いする。

シルバー人材は一校あたり3人ほどつく予定である。子どもスキップの所長や校長、副校長に相談し、暗い道、交通量の多い通学路を選定している。

I 委員

アーバンスポーツ体験は、1年で3つのスキップが体験するとなると、6年以上かかる計算になるが、毎年やっていく予定ということだろうか。

放課後対策課長

そのとおりである

I 委員

両親が仕事をしていると、子どもの習い事や色々なことをするのも土日に集中してしまったり、忙しく子供に携われなかったりするので、様々なことを学童クラブでやることは素晴らしいと思う。宝塚のワークショップも、予算が取れなかったということだが、またそういう機会を作ってくれれば良い。

J 委員

おかえりサポートについては、施設によるが職員が門まで送っている。また、暗く遅い時間や大勢が帰る際は、より遠くまで職員が送っている。30分毎のため、その時間は施設から職員が減っていた。シルバー人材は交通誘導員の経験がある人もおり、門より外にも送ってもらえるため、それだけでもだいぶ安心できる。職員の負担が減り、子どもを送れるのは期待している。時期が限られていて残念だが、もし他の時期も可能であれば、お願いしたい。

アーバンスポーツやミュージカルワークショップは他団体の協力で行っていたが、他に

も来てくれる団体がある。今年は跡見学園女子の大学生がクリスマスのワークショップを開いてくれた。来年度は、金融機関が、子供向けのお金のレクチャーと貯金箱作りを行ってくれる。スキップの一番の目的としては、放課後の時間を安心して充実して過ごしてもらおうことだと考えているため、令和 7 年度も色々なことができるのではないかと考えている。職員もイベントを充実させられるスキルを身に付け、スキップ独自のイベントを行っていききたい。

また、学童クラブの出欠システムの導入について、本日操作説明会に参加したが、手動でやっていたものがパソコンでできるのは夢のようなシステムである。不安としては、使いこなせるかどうか。変えたことで起こってしまうミスを事前に察知して対策を練らないといけない。学童クラブは出欠の管理に時間がかかってしまい、連絡帳を見ている時間が長くなってしまう。システムの導入により短縮できる時間で、子どもの顔を見て受け入れをしたり、空いた時間を子どもと関わる時間にあてたり、イベントの開催にあてたりという時間にしていききたい。

K 委員

子ども家庭部との連携を強化するという意味でも、今日のことを伝えていきたい。

※ 審議経過の記載が 2 頁以上にわたる場合は、右肩にNo.を付す。

提出された資料等	・令和 6 年度 子どもスキップ運営協議会名簿 ・子どもスキップ運営状況
----------	---